

平成24年度実施事業評価

事業名	米原のタウン情報誌「まいスキッ！」0号発刊		
団体名	まいばらフリーペーパー	担当課	商工観光課
背景	米原市には民間が制作する市内情報の発信ツールがなく、米原市内にある多くの魅力や資源が市民自身にも知られていない。		
事業内容	<p>行政の制作物でもなく、また（スポンサーや利潤に制限される）民間の制作物でもない、その中間に位置するような自由度の高い独自の「米原タウン情報誌『まいスキッ！』」をつくりあげ、これまでと違った視点で米原市の様々な魅力を発信した。</p> <p>平成24年12月 準備号「0号」の発刊。</p> <p>発行部数：15,000部 配布先：米原市内全戸、公共施設、近隣の協力店</p>		
協働のメリット	行政の持つ情報と、民間の持つ自由な発想を合わせることにより、米原市の様々な魅力を発信できる。		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・米原初となるタウン情報誌であり、市内はもちろん市外での反響も大きく、米原市の魅力を発信できた。 ・特集や広告として掲載した店舗へ「まいスキッ！」を見た人の来客があり、米原の活性化に少しは役立てた。 ・市と協働したことで、掲載先の選定や取材がスムーズに運び、市内の事業者のPRができた。 		
自己評価（団体）	<p>タウン情報誌の発行は初の試みだったため、取材や広告の協力を得るのが初めは大変だった。企画の段階から、団体と行政が会議を行い誌面の内容や役割分担を協議し、より良い誌面作りができた。</p> <p>更なる効果を上げるためには、これからも継続的に発刊し情報発信が必要である。掲載したお店には、まいスキッ！の読者が訪問されたので、一定の効果はあったと思われる。</p>		
自己評価（行政）	<p>団体メンバーと市担当者がコミュニケーションを図り、臨機応変に対応できた。</p> <p>市内にある店舗等の認知度が向上した。</p> <p>「まいスキッ！」を活用して、店舗等を訪れる市民が生まれ、市内における消費を促した。</p>		
講評	<p>広告も集められており、紙質も落とすことなく素晴らしい出来。仕事をしながらの活動で大変だと思うが、ぜひこのクオリティを守り継続してってもらいたい。</p> <p>少し活字が小さいと感じる。各ページの内容に応じて、写真や活字の大きさ、情報量を工夫されたい。</p> <p>今後、市民や市外の読者からの意見など、外部からの評価の受け取り方法を考えていかれることと、行政は今後も市の広報の一端を担うものとして民間の力を応援して行ってください。</p>		

事業名	Myばらで米原のまちづくり		
団体名	Myばらプロジェクト	担当課	市民自治センター
背景	「交通の要衝」として発展してきた米原市としての地域特性が十分生かされておらず、地域の活性化や発展性のための市民レベルのまちづくり活動が必要。		
事業内容	<p>「My（わたしの）ばら」＝「まいばら」を合言葉に、バラで米原のまちづくりを活性化し、これまでまちづくりに興味や関わりが無かった市民にだれもができるまちづくり活動のきっかけをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 24 年 10 月 27 日 市民参加によるバラの植栽イベント実施 午前：米原庁舎花壇 午後：ルッチプラザ（伊吹・山東・近江庁舎分） 平成 25 年 3 月 ラティス等の作成 随時 植栽したバラの生育確認 平成 25 年 1 月 29 日 「Myばらブローチづくり」：米原小学校 在校生が贈る卒業式用ブローチ作り（5年生女子 15 名と保護者 8 名） 		
協働のメリット	公共施設に市民自らが植栽することで、地域への関心や愛着が増し、市民の手で行うまちづくり活動による地域の活性化が推進できる。		
成果	<p>植栽の参加者からは自分の植えたバラが咲くことが楽しみだという声も聞かれ、市役所庁舎をより身近な場所に感じていただけた。</p> <p>「Myばらブローチ」が、米原小学校の卒業式のブローチに採用され、在校生代表の 5 年生とその保護者に Myばらブローチづくりを指導し、在校生から卒業生への繋がりを伝える取組として喜ばれた。市と協働したことで広く周知され、小学校での取組や、大学との連携にも結び付いた。</p>		
自己評価（団体）	<p>誰にでもどこの家庭でも簡単にできる市民のまちづくり活動として、ばらの植栽事業に市民の皆様が参加いただけた。</p> <p>しかし積極的な市民活動に理解や協力をいただけない部署があり大変残念に思う。</p> <p>これまで関心のなかった人やまちづくりに踏み込めなかった人が気軽に参画してもらうためにもメンバーやサポーターなど、人材を増やす必要がある。</p>		
自己評価（行政）	<p>市民参加者の募集方法や他イベントとの重複が無いようにする配慮と、継続的に子ども達が参加できるような手法を計画段階から検討すべきだった。</p> <p>維持管理について、計画段階から事業者と共に十分な打合せを行うべきだった。</p>		
講評	<p>わずかな予算で様々な普及活動をされている。大学との連携の他にも企業の協力、また自治会とも連携しながら活動されることで広がりをもつ。</p> <p>小学校でのコサージュ作りも、子どもたちに人とのつながりを伝えるよい機会。今後活動の輪が広がるよう行政もバックアップを。</p>		

事業名	伊吹山テレビ文字放送情報のオンライン化		
団体名	米原IT推進部	担当課	広報秘書課
背景	市内で放送されている行政放送「伊吹山テレビ」の文字放送は、市民生活に係る重要な情報であるにもかかわらず、1時間に1回しか放送されるチャンスが無く、必要な時に情報を調べられない上、他の媒体では情報を入手できない場合がある。		
事業内容	伊吹山テレビで配信されている文字放送を「伊吹山テレビ Online」としてインターネット上に掲載し、併せてFacebookでも発信し、いつでもどこでも市民が情報を入手できる体制を整え、市内のイベント等の情報を集約する。		
協働のメリット	市がケーブルテレビを通じて発信している市政情報や地域情報を、市民団体がインターネットに公開する環境を整備することで、より多くの市民が情報を利活用できる。		
成果	<p>(株)ZTVのケーブルテレビ加入者しか視聴できなかった文字放送の内容をインターネットに公開することで、TwitterやFacebookを通じた情報発信も可能になり、より広範囲に情報を発信することができた。</p> <p>また、放映済の情報を保管することで、地域情報等を蓄積することができた。</p>		
自己評価（団体）	<p>新規公開する文字放送情報の内容や公開後の修正など、都度情報交換を行い、円滑な事業運営ができた。掲載情報についての連絡は遅滞なく行えたが、事業全体に関する意見交換などの機会があまり設けられなかった。</p> <p>米原市が発信する情報を、その発信チャンネルを多様化することにより、多くの人に伝えるきっかけが広がることが当サイトの結果からも判明し、今後も継続的に情報を発信していくことの重要性が確認された。</p>		
自己評価（行政）	<p>事業開始前の協議や、提供する情報の管理方法などの確認がやや遅れたが、その後は都度情報交換を行い、円滑な事業運営ができた。</p> <p>団体運営サイトの開始後は、遅滞なく情報を提供することができ、また、団体側も逐次サイト掲載情報の更新を行うなど、効果的な相互協力ができた。</p> <p>情報の広がりや、サイトアクセスの向上の面では前進したと言える。</p> <p>しかし、そもそも本市が発信する情報が、各種媒体への横断的な掲載、特にウェブサイトへの掲載が不十分な点を改善することが今後の課題。</p>		
講評	<p>情報量の充実や米原市をアピールする媒体として、今後も期待している。</p> <p>市内向けの情報が基になっている「伊吹山テレビ」の文字放送で、市外向けの情報をいかに拾うかなど充実のための取組は進めていただきたいが、団体の作業負担と経費負担が心配される。</p> <p>引き続き市との協働で進めていく上で継続可能な手法の検討も進められたい。</p>		

事業名	伊吹の天窓		
団体名	伊吹の天窓実行委員会	担当課	政策調整課（水源の里振興担当）
背景	いつまでも住み続けたい水源の里まいばらをつくるためには水源の里まいばらの魅力を伝え、米原に住みたいファンを増やし、定住につながるまちづくりを進める必要があるが、担い手や機会そのものが絶対的に不足している。		
事業内容	<p>担い手や機会の不足といった課題解決に向けて、米原市の課題や魅力を認識し、共有し、それぞれが有機的な交流の機会を作り出す。また、継続的な情報発信により、ネットワークの輪を広げていく。</p> <p>1) 里おこしイベント「伊吹の天窓 2012」を開催</p> <p>■日時 2012年7月14日（土） 14:00～ 21:00</p> <p>■会場 奥伊吹スキー場</p> <p>■集客数 約800人</p> <p>2) 米原市の魅力や課題を伝える継続的な情報発信と収集</p> <p>伊吹の天窓オフィシャルウェブサイト、Facebook、Twitterを活用し、伊吹の天窓の情報を発信。単に米原市の魅力の発信を行うだけではなく、魅力の掘り起こしや、新たな魅力の創出を目的とした活動も継続的に行った。「イプスキ行進曲」を公式ソングとして位置づけ、「雪ふみ行進」をメインプロモーションツールとして、米原市や市外の各所に足を運び、そこで地域内外の団体やグループと一緒に踊りながら活動を広めた。</p>		
協働のメリット	<p>米原市が蓄積している情報、能力、ノウハウを共有していくことで、スピード感と実行力をもって事業推進していくことが可能になる。</p> <p>また市の目指すべき政策の方向性と合致しており、移住者や地元出身の若者・アーティストで構成されている当団体と協働で事業を実施することで、行政には無い新しい視点やノウハウによる大きな効果が期待できる。</p>		
成果	<p>1) 米原ファン候補の獲得と積極的な交流</p> <p>2) 地域住民の元気づくり</p> <p>3) 新たな魅力の創出（新たに生み出したご当地ダンス「雪ふみ行進」）</p> <p>4) オール米原を意識した活動展開</p> <p>5) 実行力をもった活動展開</p> <p>6) お互いの役割を尊重し合える関係性の構築</p>		
自己評価（団体）	<p>多くの地域住民の方から来年を期待する声をいただいたこと、多くの米原市外の方から来年も来るよと言っていたこと、そして、米原市の若い世代の人たちが自分も実行委員会メンバーとして参加したいと言って仲間になってくれたこと。</p> <p>伊吹の天窓の事業を継続していくことによって、課題解決や目標達成に近づいていけることを感じている。</p>		

自己評価（行政）	米原市の魅力を、アートをはじめとする様々な切り口から広く内外へと発信し、関係者や参加者の若者等の有機的な交流も生まれていることから、「いつまでも住み続けたい水源の里まいばら」「若者にとっての移住の適地としての米原」という米原市の新しいイメージづくりに向けた大きな一歩となっていると実感している。
講 評	地域にとっては大変な負担の「草刈り、雪かき」をダンスにしたのは思いもつかない発想で驚いた。若者が地域を見直してくれるきっかけになればと思う。しかし実際は簡単ではない本質の解決も目指してほしい。 事業者との連携や協力もあり、新たなビジネスモデルとしての発信も期待する。

審査委員総評

新たな視点の協働を協働のいろんな可能性を見せていただけた。ネットワーク力を今後も生かして、コミュニティビジネスとして、また新たなビジネスモデルとしての発信にも期待する。

協働事業を始めるに当たっては、新たに市民が提案する事業に対して、行政職員が役割分担し、サポートできるか、それが課題。評価シートに書かれている経過から、その努力の跡がうかがえ、今後もこの協働モデルのプロセスを大事にしていきたい。

協働事業はお金も行政の力も入っているが、継続のために必要なことは、思いを伝える手法。それによって仲間が増え、賛同者が増え、その結果人材や資金も増えてくる。そうして日常的な協働が生れる。